

①

ハルシオン

春紫苑はるしおん

キク科

移住者の数奇な運命

アフリカから強制的に新大陸へ連れて来られ、かつては奴隷として使われた黒人たちが、その苦難の歴史は筆舌に尽くしがたい。しかし、差別と戦いながらも今や多民族国家の構成員として、しっかりとその地位を占めている。とくにスポーツや音楽などの分野に秀でた彼らの活躍には、誰もが賞賛の拍手を惜しまないだろう。

外国から日本へやってきた植物を外来植物、あるいは帰化植物という。国境を越えた人の移動や物流が盛んになるにつれて、紛れ込んで移動する植物も多くなってきた。しかし、人間の意図によって強制的に連れて来られた植物もある。多くの珍しい植物が園芸用に外国から導入されるのもその一例だ。しかしなかには飽きっぽい人間の都合で、放置されたり、管理されすぎた花壇を嫌って逃げ出したりして、雑草化するものもある。これらが「エスケープ雑草」と呼ばれている植物である。

ハルシオンもそんなエスケープ雑草の一つで、大正時代に園芸用植物としてアメリカから日本に導入された。「ピンク・フリーベイン」、このモダンな名前がハルシオンの昔

の名前である。当時は花屋の店先を美しく飾ったことだろう。しかし、そんな華やかな生活は長くは続かなかつた。花屋にはつぎつぎに目新しい花々があふれるようになり、ハルシオンはいつしか見捨てられてしまったのである。

「ハルジオン・ヒメジオン」というユーミンの歌のタイトルにもあるように、ハルジオンとかハルジオンと呼ぶ人も多いが、正式な名前はハルシオンである。ドラッグと同じ名前なので抵抗のある方もいるかもしれないが、春に咲く紫苑しおんⅡ「春紫苑はるしおん」の意味である。ちなみに、ハルシオンによく似たヒメジオンは「姫女苑ひめじよおん」である。

ところが、花屋を追い出されたハルシオンにつけられた別名は「貧乏草」だった。落ちぶれた家の庭に生えると噂され、人々からはまるで貧乏神のように忌み嫌われたのである。落ちぶれた家は「屋根にぺんぺん草が生える」といわれる。しかし、ぺんぺん草の異名を持つナズナが屋根に生えることはほとんどあり得ない。このぺんぺん草の正体は、風で屋根まで種子を運ぶことができるキク科の雑草だろうと考えられている。ハルシオンもぺんぺん草の一つとして崩れかけた屋根で暮らしたこともあったろう。

しかし今、テレビなどではハルシオンの花は季節の風物詩として紹介されるようになった。時には美しい自然の風景として紹介されることもある。ハルシオンの学名は「フィラデルフィカス」。その名のとおり、もともとは北米・フィラデルフィアの大地に咲



く野の花だったのだ。数奇な運命にもてあそばれたハルシオンは、長い苦渋の時を克服して今や野草としての地位を確立したのである。

しかし、物語はまだ終わらない。樹園地に勢力を広げるハルシオンは害のある雑草として迫害を受けることとなった。除草剤による駆逐が始まったのである。それでもハルシオンは負けなかった。驚くことに厳しい除草剤の攻撃と戦い続けるうちに、ついには除草剤をかけても生き残るミュータント（突然変異体）があらわれたのである。農薬に対する抵抗性は、昆虫では広く見られるが、昆虫ほど世代更新が早くない植物では発達しないだろうというのが定説だった。ところが追いつめられたハルシオンは定説をくつがえし、ついに禁断のミュータントを誕生させたのである。除草剤抵抗性タイプによる人間への抵抗は今、ハルシオンのみならず他の雑草にも広がりつつある。大正、昭和、平成の三つの時代を生き抜いてきたハルシオンの激動の歴史はこれからも続くことだろう。

植物に限らず、外国から連れて来られた外来生物は、もともと日本にあった生態系を壊すために忌み嫌われている。しかし、彼らに罪はない。彼らは無理やり連れて来られた見ず知らずの土地で、懸命に生存の道を探っているに過ぎないのだ。生態系を壊す悪者は決して彼らではない。被害者ヅラをしている私たち人間こそが生態系を壊している元凶なのである。ハルシオンのサクセス・ストーリーを誰が責められようか。

ハルジオン（春紫菀、学名：*Erigeron philadelphicus*）は、**キク科ムカシヨモギ属**の植物。**ヒメジョオン**と共に、道端でよく見かける。花言葉は「追想の愛」。

目次 [非表示]

- 1 概説
- 2 名前の由来
- 3 ヒメジョオンとの見分け方
- 4 関連項目
- 5 外部リンク

概説 [編集]

多年草で、背の高さが30-80cmくらいになる。

根元には匍型の根出葉があり、花の時期にも残ることが多い。葉と茎は黄緑色で、まばらに毛が生える。茎はあまり枝分かれせずに伸び、先の方で何回か枝分かれして、花をつける。花はヒメジョオンと同じく、細い舌状花を持つ**ヒマワリ**のような花だが、白とピンクのものがある。また、ヒメジョオンより一回り花が大きい。花の時期は4月-5月頃でヒメジョオンよりも早い。一部の地域では「貧乏草」と呼ばれ、「折ったり、摘んだりすると貧乏になってしまう」と言われている。

北アメリカ原産の**帰化植物**で、**大正時代**の中頃に観賞用として**日本**に入ったと言われている。現在ではほぼ日本全国に分布し、都会を中心に見られる。**日本生態学会**によって**日本の侵略的外来種ワースト100**に選定されている。



ハルジオン *Erigeron philadelphicus* L. (キク科 ムカシヨモギ属)

ハルジオンは北アメリカ原産の帰化植物。北海道から九州に帰化しているとされるが、岡山県の沿岸部では少なく、時折見かけるものの定着しにくいようである。乾燥に弱い傾向があるのかもしれない。根の不定芽から発芽して繁茂することなので、抜いても根が残っていると再生できることになる。ヒメジョオンが一年草なのに比べ、同じ場所で次第に個体数を増やして群落を形成しやすいわけである。花は4月から咲き始め、ヒメジョオンよりも早いのでハルジオンの名前をいただいている。花はこの画像のように淡紅色を帯びるものからほとんど白色のものまである。無配生殖を行い、種子でも繁殖する。

花時にも根生葉が残っている点、花やつぼみが頭を垂れやすい点、茎が中空である点などでヒメジョオンと区別されるが変異が多い。





名前	ハルジオン
科名	キク科
学名	<i>Erigeron philadelphicus</i> L.
花期	4月～6月

あき地や道ばたでよく見かけます。大きなものは1mにもなります。

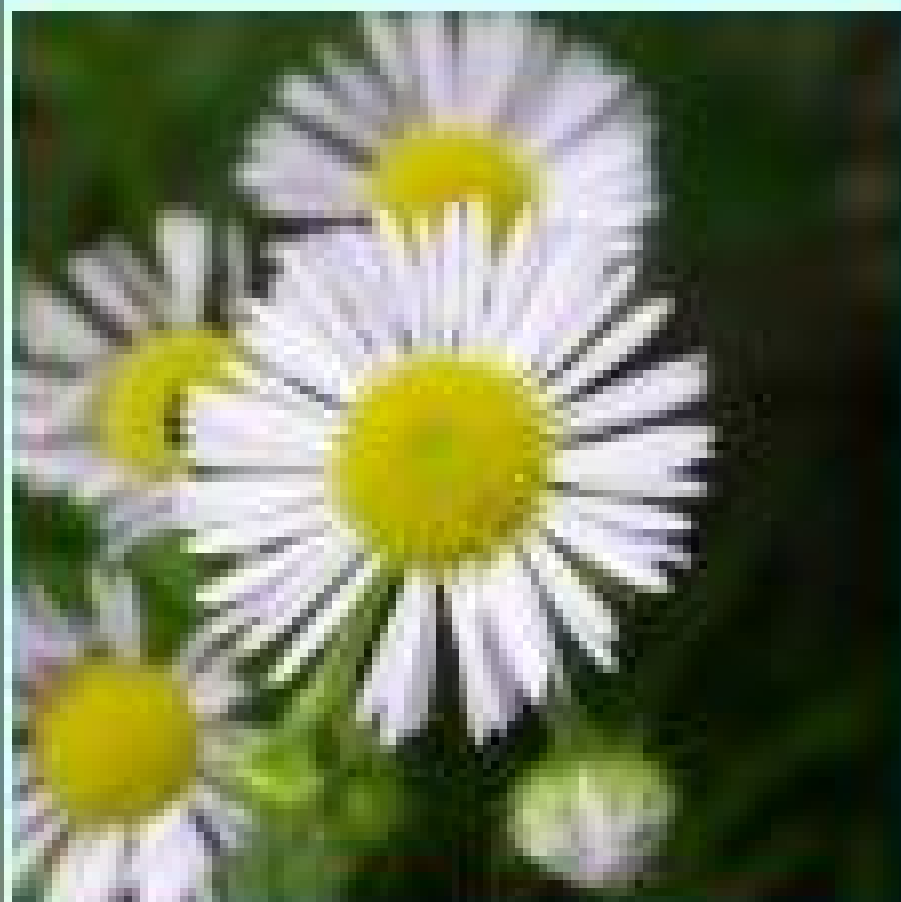
花びらは白色やピンクで、花がさくのは春から夏前までです。

葉がつけ根のところでくきをたくようにつくこと、つぼみが下向きにたれていることが特ちょうです。

そっくりな野草にヒメジョオンがあり、見分けるのはむずかしいですが、花をさかす時期はヒメジョオンのほうが遅く、5ごろから夏にかけてです。

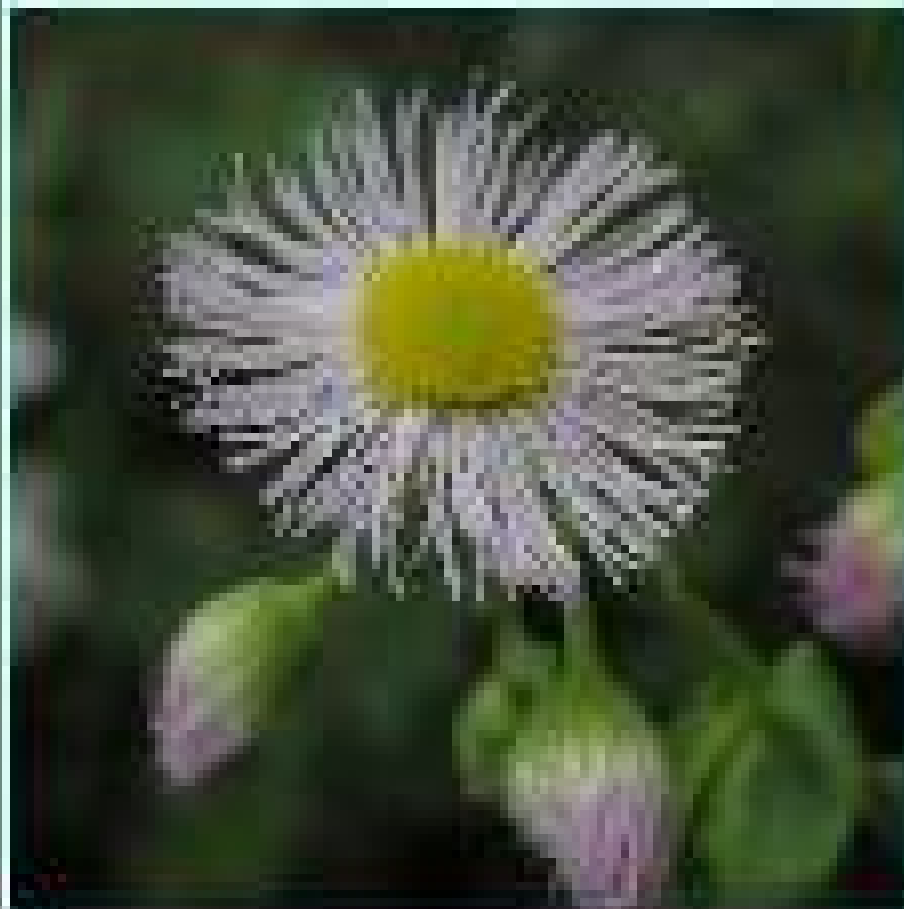
花期は5月ごろから夏にかけて。つぼみは下向きにたれず、花びらの色は白色。

ヒメジョオン



つぼみが下向きに
たれる。花の色は
うすいピンクになる
ことがあり、花期は
6月ごろまで。

ハルジオン





名前	ヒメジヨオン
科名	キク科
学名	<i>Erigeron annuus</i> L.
花期	春～夏
<p>あき地や道ばたでよく見かけます。大きなものは1 mにもなります。</p> <p>花は5月ごろから夏にかけてさきます。</p> <p>よく似た野草にハルジオンがありますが、ハルジオンのほうがはやく花をさかせます。</p>	











ハルジオン(春紫苑)

キク科ムカシヨモ
学名:Erigeron p

写真一覧表の | [総索引へ戻る](#) |
[早春へ](#) | [春へ](#) | [夏へ](#) | [初秋へ](#) | [秋](#)
| [トップページへ戻る](#) |

■特徴・分布・生育環境

ハルジオンは、大正時代に北米から観賞用に渡来した外来種です。草丈30～60cmくらいの越年草(あるいは多年草とも言われます)です。

早春から春にかけて花茎をたて、茎頂と上部に数個の花を群がらせるようにつけます。蕾は項垂れているように下向きにつきます。花は、中心に多くの黄色の筒状花をつけその周りに沢山の糸状の花弁(舌状花)を放射状につけます。花や蕾はうすくピンクがかっている場合があります。花茎は中空(真ん中に穴が空いている)です。秋に芽生えて、ロゼット葉(放射状に地際に伸ばした葉)で冬を越します。

しばしば仲間(同属)のヒメジョオン(姫女苑)に対比させて語られます。ハルジオンは早春から春一杯に花をつけていますが、ヒメジョオンはハルジオンと入れ代わるように春の終わりから咲き始めて秋まで咲いています。

なお、ヒメジョオンも同様に北米からの外来種で明治時代初に渡来しています。

渡来して歴史は浅いのに、既に多摩丘陵では里山の小道脇や草原に多く見られます。もちろん市街地の小さな緑地や公園などでも普通に見られます。

■名前の由来

秋に咲く野菊の仲間のシオン(紫苑)に似て花が美しく、春に咲くことからの命名です。なお、紫苑は中国の漢字名の日本語読みのようにです。

ただ、シオンは草丈2m近くになり、花ももっと美しく、あまり似ているとは言えません。なお、シオンは多摩丘陵にはもともとの自生はなく、稀に植栽されているだけです。

しばしば、ヒメジョオンを、ハルジオンに対比させてヒメジオンと呼ぶことがあります。誤りで、標準和名は「ヒメジョオン(姫女苑)」です。

写



ハルジオンの花(1)



ハルジオンの花(2)



ハルジオンの冬のロゼット葉



ハルジオンの新葉と蕾

ハルジオン 撮影・東京都
Erigeron philadelphicus L.



ハルジオンは、花期まで根生葉が残ります。花や葉の色は、やや濃いものの、つぼみが茎ごとうなだれるためか、全体に曲線の持つ柔らかな雰囲気があります。ヒメジョオンの葉は、明るい緑色ですが、茎がまっすぐ立ち上がるので、直線的な印象を受けます。

2008.08.

ヒメジョオン *Stenactis annuus* (L.) Cass.

